

I. 総 則

1. 原稿は現代かなづかいに従い、医学用語を除き常用漢字を用い、平がな交じり、横書きとし、A4判800字詰(32文字x25行、12ポイント)とする。
2. 各専門分野で認められている省略記号以外、術語の省略はしない。なお、略語を使う場合は、原則として抄録・本文ともに初出時にフルスペルで明示する。また、外国人名は原語を、薬品などの化学用語は学術名を用いる。
細菌の名称を学術名で表す場合は、属は語頭のみ大文字とし、種は小文字でかつイタリック体で表記する。
3. 度量衡はCOS単位に限る。
m, cm, min, μm, nm, l, ml, kg, g, mg, μgなど、各記号の後に点(.)はつけない。
4. 統計処理を行った時は、統計学的検定法と有意差水準を明記する。
5. 謝辞は結語の後につける。

II. 原稿の作成

- (1) 論文原稿:標準的なフォント(MS明朝, MSゴシック)を用いたMicrosoft社のWord(DOC(X))で作成する。
 - (2) 表:標準的なフォント(MS明朝, MSゴシック)を用いたMicrosoft社のExcel(XLS(X))またはWord(DOC(X))で作成する。
 - (3) 図:(キャビネ版程度の大きさにする)
DOC(X), XLS(X), PPT(X), JPG, TIFF, GIF, AI, EPSおよびPSDフォーマットなどのオリジナルファイルをアップロードする。
- (A) 表紙
- (1) 論文種別:原著, 臨床経験, 症例報告の別を明示する。
 - (2) 所属施設名:大学に籍のあるものは, 教室名まで記載。病院は所属科まで記載する。
 - (3) 所属施設住所
 - (4) 連絡先(連絡責任者の氏名, 現勤務先所在地, 名称, 所属科, 電話番号, FAX番号, e-mailアドレス)
- (B) 本論文
- (1) 索引用語
臨床経験・症例報告には3個以内の索引用語を付ける。索引用語から論文が確実に拾い出されるように、具体的、的確なものとする。
 - (2) 緒言(はじめに)
 - (3) 対象および方法(または症例)
 - (4) 成績(結果)
 - (5) 考察
 - (6) 結語(むすび)
- (C) 引用文献
- 本文中で引用した文献は引用順に番号を該当箇所の右肩につける。本文の終りに番号の順序に従って列挙する。著者が3名以上の場合は、3名まで列記し、4名以上の場合は他、またはet alとする。
総会抄録集・増刊号など、抄録しか掲載されていない雑誌は文献として引用することができない。
記載要領は次の通りである。

- a) 雑誌の場合
- 著者名:題名, 雑誌名年(西暦);巻:頁-頁
略誌名は, 医学中央雑誌刊行会編「医学中央雑誌収載誌目録略名リスト」および「Index Medicus」に準ずる。in pressは引用不可とする。ただし、巻や頁が確定していない段階で「Epub ahead of print」として雑誌刊行以前にオンラインで発表されている文献は、DOI(Digital Object Identifier)併記のうえで引用を認める。巻や頁が確定している場合はDOI併記による「Epub ahead of print」の引用は認めない。
- 例
- 1) 高林一浩, 齊田芳久, 榎本俊行他:急速な発育を示した小腸腸間膜原発平滑筋肉腫の1例. 日臨外会誌2011;72:500-504
 - 2) Larson DW, Marcello PW, Larach SW, et al:Surgeon volume does not predict outcomes in the setting of technical credentialing :results from a randomized trial in colon cancer. Ann Surg 2008;248:746-750
 - 3) Theocharidou E, Pieri G, Mohammad AO, et al :The Royal Free Hospital Score:A Calibrated Prognostic Model for Patients With Cirrhosis Admitted to Intensive Care Unit. Comparison With Current Models and CLIF-SOFA Score. Am J Gastroenterol 2014;doi:10.1038/ajg.2013.466. [Epub ahead of print]
- b) 単行本の場合
- 著者名:書名. (巻), (版), 発行所, 発行地, 年(西暦), p 頁-頁
- 1) 坪田紀明:イラストレイテッド肺癌手術. 手技の基本とアドバンス・テクニック, 第2版, 医学書院, 東京, 2007, p13-16
- c) 分担執筆単行本の場合
- 著者名:分担項目名. 編者名, 書名, (巻), (版), 発行所, 発行地, 年(西暦), p頁-頁
- 例
- 1) Al-Refaie WB, Strom EA, Middleton LP, et al:Surgical management of axillary metastases from occult primary breast cancer. Ed. by Pollock RE, Curley SA, Ross MI and Perrier NE. Advanced Therapy in Surgical Oncology. BC Decker Inc, Hamilton, 2008, p543-548
 - 2) 多村幸之進, 小柳泰久:鼠径部ヘルニアの手術手技1. Marcy法, Iliopubic tract repair法. 沖永功太編, 鼠径部ヘルニアの手術, へるす出版, 東京, 2003, p34-40
- d) インターネットの場合
- (インターネットのみに存在する文献に限る)
- 題名, (アクセス日, アドレス)
- 例) NCCN Clinical Practice Guidelines in Oncology Breast Cancer v.2. 2007, (Accessed May 1, 2007,at http://www.nccn.org/professionals/physician_gls/PD/)

breast.pdf)

(D) 表と図 (写真を含め), そのタイトルおよび説明文

(1) 表は Table 1, Table 2, 図は Fig. 1, Fig. 2, のように英語とアラビア数字を使用する. 表・図のタイトル, 内容, 説明文は日本語または英語のどちらかに統一する. タイトルと説明文は一括して論文原稿に記載し, 図中に説明が必要な場合には当該箇所に記号をつけ説明文の中に記載する. 組織像は染色法と倍率を図の説明文に明記する.

(2) 引用される表・図の番号は本論文の該当文章の末尾に括弧付きで挿入する.

Ⅲ. 本誌における論文重投稿・掲載, 模倣の判断とそれへの対応ならびに罰則

(A) 重投稿・掲載

1. 重投稿, 掲載の判断

CONSENSUS STATEMENT ON SUBMISSION AND PUBLICATION OF MANUSCRIPTS 2001 (出月康夫 日本臨床外科学会雑誌, 2001年 62巻 6号, 1359-1361頁) に挙げられている基準に準じて, 本誌編集委員会において判断する. なお, 重投稿・掲載の判断は著者の所属施設や論文の内容から総合的にくださるものであって, 筆頭著者の異・同にかかわらない.

ただし, 本誌に既に掲載された邦文論文と同じ内容を英語に書き換えて外国雑誌に投稿する際には, 上記基準に示されている例外条件を全て満たす場合のみ, 重投稿とは見做さない. 外国誌にも掲載された場合, 業績として認められるのは, いずれか一方のみである.

2. 重投稿・掲載への対応と罰則

(1) 本誌に既に掲載された論文がその後他誌に重投稿・掲載されたことが判明した場合には, 後発の論文を他誌から撤回するように著者に求める.

(2) 本誌に掲載された論文が, それより先に既に本誌あるいは他誌に掲載された論文の重投稿・掲載であることが判明した場合には, 後発の本誌掲載論文を取り消し処分とし, その旨を本誌に掲載する.

(3) 論文の本誌受付の際に重投稿・掲載が判明した場合には, 受付拒否処分とする.

(4) 本誌に受付され査読中の論文が重投稿・掲載であることが判明した場合には, さかのぼって本誌への受付拒否処分とする.

(5) 重投稿・掲載が判明した場合には, 著者全員にその旨を嚴重注意し, 判明の時点から3年間その筆頭著者名が含まれる論文(筆頭・共著者の如何を問わず)の本誌への投稿を禁止とする.

(B) 模倣

1. 模倣の判断

本誌・他誌, 著者の異・同にかかわらず, 以前に掲載された論文の記述に酷似したものを模倣と言い, 本誌編集委員会において判断する.

2. 模倣への対応と罰則

(1) 他誌に掲載された論文がそれ以前に本誌に掲載された論文の模倣であることが判明した場合には, 後発の論文を他誌から撤回するように著者に求め

る.

(2) 本誌に掲載された論文がそれより先に既に本誌あるいは他誌に掲載された論文の模倣であることが判明した場合には, 後発の本誌掲載論文を取り消し処分とし, その旨を本誌に掲載する.

(3) 本誌に受付され査読中の論文が既に本誌あるいは他誌に掲載された論文の模倣であることが判明した場合には, さかのぼって本誌への受付拒否処分とする.

(4) 模倣が判明した場合には, 著者全員にその旨を嚴重注意し, 判明の時点から3年間その筆頭著者名が含まれる論文(筆頭・共著者の如何を問わず)の本誌への投稿を禁止とする.